1 学校教育目標

○よく考えて 進んでやりぬく子 ○あかるく強く たくましい子 ○みんな仲よく 助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○確かな学力と豊かな心、健やかな体をはぐくむ学校 ・学力を定着させる学校 ・豊かな人間性をはぐくむ学校・体力・運動能力を高める学校 ・家庭・地域・学校が協力し合う学校
○児童・生徒像	○自信とやる気があり進んで行動し、互いに認め合い高め合う児童 ・様々なことにチャレンジし、目標をもって努力して課題を解決しようとする児童 ・思いやりの心を持ち、友達と仲良く、元気に生活する児童 ・共に考え、共に学び、協働して高め合うことができる児童
○教師像	○子供に最善の教育を行うために、子供と共に自ら伸びようと努力し続ける教師 ・敬愛され、児童・保護者・地域に信頼される教師 ・自己研鑽に努力を惜しまない教師 ・教育の専門職としての力量と誇りをもつ教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

○児童について

明るく素直で純粋な児童が多い。基本的な生活習慣・学習習慣に課題の見られる児童がいる。

○教師について

教職経験の少ない教師が半数近くを占める中、指導力向上は重要な課題である。またこうした課題は、他区から本校を2校目として異動してきた教師にも潜在する。今後、主力教員の人事異動に伴う自校での人材育成が大きな課題である。

○保護者・地域について

学校行事やPTA行事は十分実施できていないものの常に協力的である。学校教育や学力向上に関する関心をさらに高めていきたい。

<前年度の成果と課題>

重点的な取組事項－1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率80%以上=R2年度2科80.4達成

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす→教員の充実度100%=学校評価2.4/5 回数削減し不十分

重点的な取組事項－3 心の教育の推進 ○自他を尊重する気持ちと態度の育成をめざす→児童の肯定的な自己評価80%以上=学校評価3.5/5

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上並びに学力の向上	○	○	○	○	○

3	幼保小中の連携	○	○	○	○	○
4	心の教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
現学年での学習内容の確実な定着	到達度確認テストー通過率 (国算2科) 80% 令和3年度目標通過率 85%	国算2科平均通過率 86.7%	年度当初目標値を 1.7 ポイント上回ることができた。	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝読書	全児童 国語	毎週 火水金 始業前 15分	【指導者体制】担任 【目的】読書の興味や読書習慣を身に付けさせる。	毎月1回、読書感想文やお薦めの読書を発表する。	低2500P 中5000P 高10000P	低2300P 中4800P 高10200P	低中学年に読書の習慣がもう少しであった。	△
継続	昼学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月 火木金 5時間 目前15分	【指導者体制】担任 【目的】学習内容の復習・確認を行う。	5月、12月、2月の3回、テストを実施	正答率 80%	学校全体正答率の平均値 77.6%	目標値より2.4ポイント下回った	△
継続	放課後補習教室	全学年 国算正答率70%未満、宿題未提出者	毎日	【指導者体制】担任+副担 【目的】学習内容の定着及び家庭学習の習慣化。	東京ベーシックドリルを活用した小テスト単元テスト再テスト	テストで全員が目標値を通過する。	学校全体単元テスト80%以上の通過率 国 78% 算 69%	平均正答率では、国 85.3 算 82 だったため A 層の児童と CD 層の児童の 2 極化が進んでいる	△
継続	ICT 機器の有効な活用	全教科	随時	ICT 機器の効果的な活用を推進する。	年3回中1回の授業観察時	ICT 機器を使用した授業を行う。	適宜 ICT を活用した授業ができています	95%の教員が ICT を適宜活用できる。	○
継続	家庭学習の定着と充実	全児童 国語 算数	毎日	【指導者】各担任 【目的】学習内容の定着及び家庭学習の習慣化。	毎日の家庭学習状況の点検と実施率把握	全員 100%	宿題提出率 85.8%	100%を目標としたが達成できなかった	△

重点的な取組事項－２		授業力の向上並びに学力の向上 ～感染症対策を図りつつ、学力向上策を充実させ、定着を図る～			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
当該学年での学習内容の確実な定着		到達度確認テスト—通過率（国算2科）80% 令和3年度目標通過率—85%	到達度確認テスト—通過率 国 78% 算 69%	目標通過率を国語で7、算数で16ポイント下回った。底上げが課題である。	●
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイム	・朝読書（火、水、金） ・昼は基礎学習	・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し段階的に定着を図っていく。	・昼のパワーアップタイム 実施率100% 朝読書の実施率100%	2つともしっかり定着しているものの、形骸化している面も見られるため課題である。次年度見直す。	○
放課後補充指導・補習指導の充実	全学年原則毎日	・全校体制で指導に取り組む。系統化した内容を行う。	・コロナ禍により10月から12月の3か月間は放課後補充指導を実施できた。	・放課後補充を受けた児童は一定の成果を上げている。	△
プレジデントタイムの実施	管理職による個別指導	・毎昼休みの補充教室に下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。	・毎回はできなかったが、必要に応じて個別の指導を実施した。	・次年度の実施形態によって管理職も積極的に関わって指導する。	△
【指導力向上】 校内初任研、若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施	初任研、若手研、ミドルリーダー研各20回 授業観察後の「アドバイスシート」内自己評価の確認と評価自己評価全項目B以上	【指導者体制】 初任、若手研（校長、主幹教諭、主任教諭）ミドルリーダー研修（副校長、主幹教諭） 【目的】授業観察を軸とした授業力指導力向上リーダーシップ育成	・主幹教諭を中心に若手研修会をこれまで8回実施 ・校長室だよりを発行し指導技術等を紹介し啓発を行った。	・若手教員の指導技術が確実に高まっている。引き続き次年度も継続していく。	○

重点的な取組事項－3		幼保小中の連携 ～コロナ禍での可能な限りの連携の推進と円滑な接続をめざす～			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な連携ができたと考える教員100% 学校評価3.5以上 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な連携ができたと考える教員は98%であった。 学校評価では、4.2であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小、小中連携も定着してきており、次年度継続して行っていく。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> 準備委員会2回 各校1回ずつ授業公開・研究 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の研究授業実施（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で研究授業は中学校の1回のみ実施し教科分科会の話し合いを1回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学講師を招いてのリモートによる講演会のみ実施することができた。 	△
保育園との交流	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の保護者会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 年長保護者会での校長講話の実施（各園1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 谷在家保育園のみ保護者会で校長講話を実施。他園では未実施。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、十分な連携はできなかった。コロナ終息後は積極的に実施するように働きかける。 	△
教員同士と児童、生徒同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の情報交換 年長、1年担任との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有会の開催（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により未実施 		

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

- ・朝読書、昼のパワーアップタイムは確実に実施することができた。これにより児童の基礎学力の向上に寄与している。
- ・区学力調査では当初目標としていた通過率 80%を 6.7 ポイント上回ることができた。
- ・ICT 主任を中心に活用研修を実施することによって、指導力、指導技術の向上と共に、児童の学習意欲の喚起につながった。

【課題】

- ・朝読書、昼のパワーアップタイムがやや形骸化し読書をしないう児童や同じ本ばかり読む児童もあり、今後見直しが必要である。
- ・区学力調査前の対策をさらに強化させていき、答え合わせの際の問題の解説の手法を各教員に研修していく。
- ・ICT のみに頼る授業や動画を見せて終わるような授業にならないように引き続き教員への研修を実施していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・リモート授業では多くの保護者の皆様にご協力をいただきありがとうございました。リモートによる道徳授業地区公開講座、リモートによる土曜授業参観共に多くの保護者の皆様にご参観いただき、高評価をいただきました。学校にお越しいただけなかった1年となってしまいましたが、コロナ終息の際には積極的に公開をしてみたいと思いますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。
- ・地域の皆様と多く関わる機会が少なかった1年となりましたが、次年度コロナ終息を願い、皆様と共に学校を盛り上げていきたいと考えております。地域の皆様のご協力なくして学校の発展はありません。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・次年度以下のことを新規事業として行っていく予定です。
 - 1 Google フォームによる欠席連絡を実施します。
 - 2 朝読書は週1日とし、火、木の両日を朝のパワーアップタイムを設定し昼学習を廃止します。これにより下校時刻を早め放課後補充学習の拡充を図ります。
 - 3 体育授業発表会の形式を継続し、保護者の皆様がお子さんの活躍をより大きく分かりやすく参観できるように配慮していきます。
 - 4 学習発表会の形式を継続し、保護者の皆様がお子さんの活躍をより大きく分かりやすく参観できるように配慮していきます。
 - 5 3年生以上で教科担任制を拡充し学年の教員が全員と関わるようにしていき担任以外の教員の児童理解を深め安全安心を高めます。